

幼稚園教育要領 第3節 環境の構成と保育の展開
 1 環境の構成の意味
 (2) 幼児の活動に沿って環境を構成する

〇〇したい！
 思いが出る
 思いを実現する

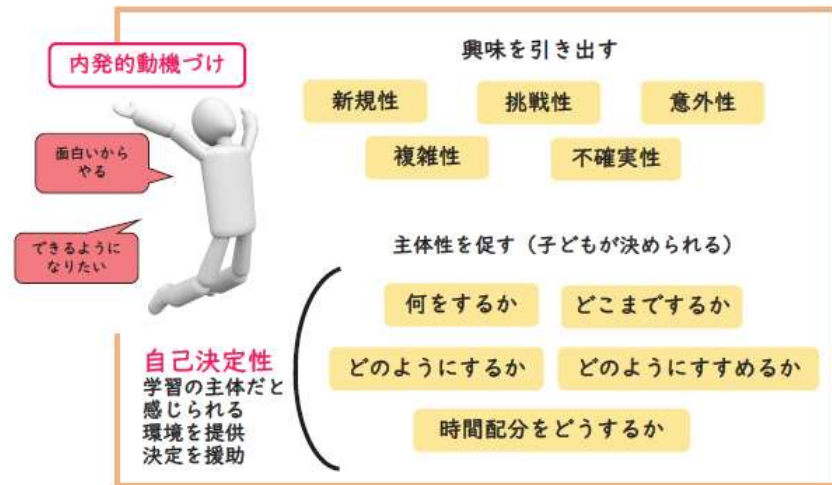
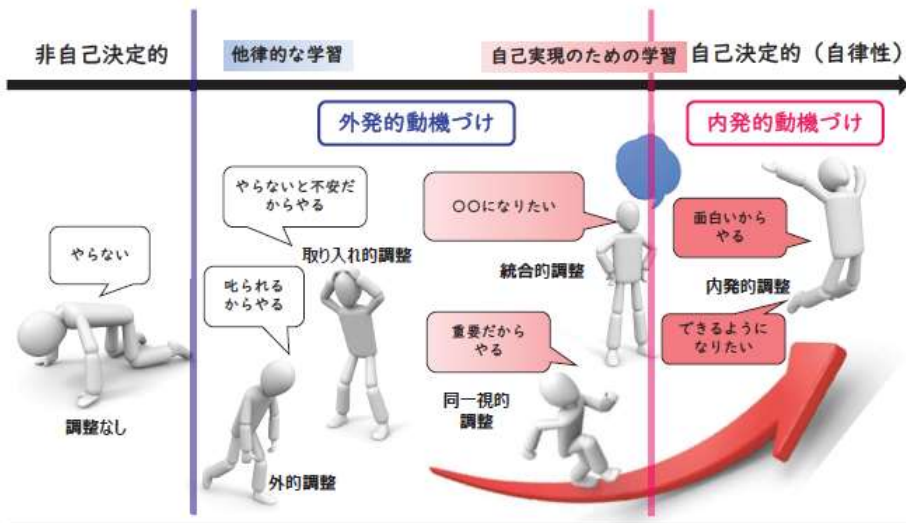
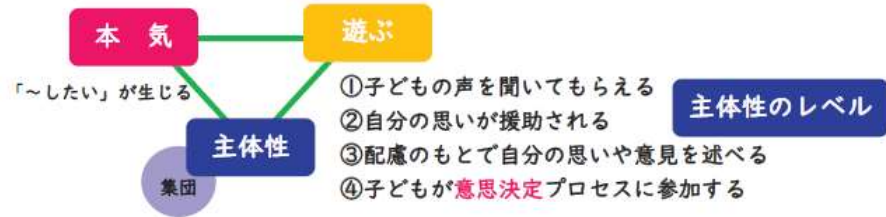


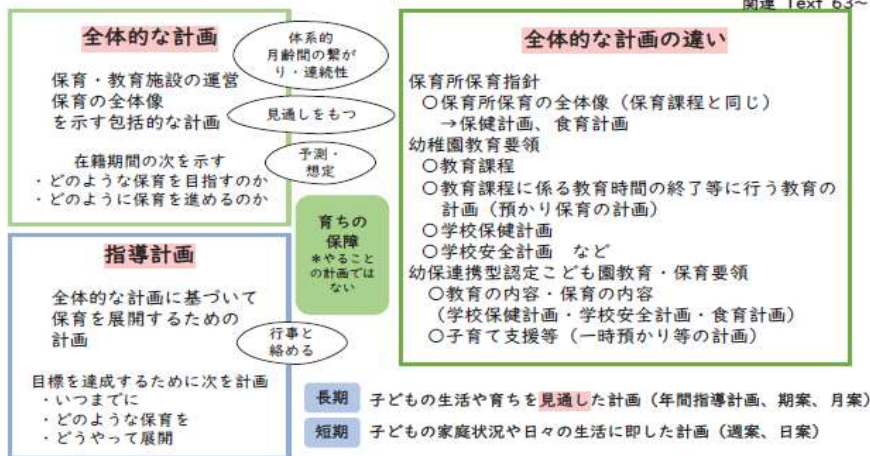
教師は、幼児が自ら環境に関わり、豊かな体験をしていくことができるように環境を構成するのであるが、その際、教師は、**幼児の活動に沿って環境を構成する必要がある**。このためには、教師は**幼児の視点に立って環境の構成を考えなければならない**。一人一人の幼児が**今何に関心をもっており、何を實現しようとしているのか、活動に取り組む中で苦勞しているところはあるのか、その困難はその幼児にとって乗り越えられそうなものなのか、あるいはこの後どんなことに興味が広がっていきそうなのかなど、幼児の内面の動きや活動への取り組み方、その取組の中で育ちつつあるものを理解することが大切である**。

津守真「保育者の地平」

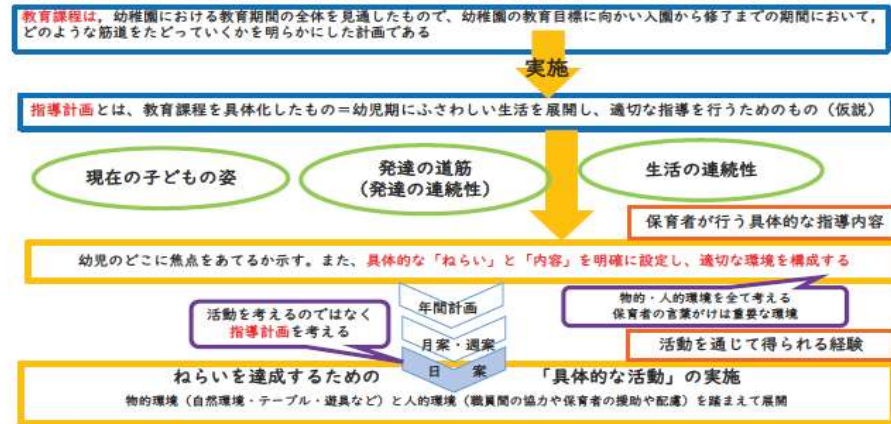
人がある行為をするとき、そこには**思いが込められている**

子どもの内なるテーマを理解する保育者との関係の中で子どもは成長する





幼稚園教育要領 第1章総則4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価



- ①客観的事実から育ちを見つける
- ②育ちを予想する
- ③②に向けた園の取り組みを示す

園が大切にしている価値観を家庭に理解してもらおうとともに、保護者と一緒に創り上げる。
 保護者が
家でもやってみた！
こんな姿があった！
 といってくれるようにすすめる。
 家庭と保育を繋げ合えるように工夫する。

全ての家庭との連携で重要な事

